【317】

氏　名（本籍）	新　井　ゆう子（東 京 都）
学 位 の 種 類	博　　士（医　　学）
学 位 記 番 号	博　乙　第　1960　号
学位授与年月日	平成 15 年 10 月 31 日
学位授与の要件	学位規則第 4 条第 2 項該当
審 査 研 究 科	人間総合科学研究科
学 位 論 文 題 目	**Differential diagnosis between normal endometrium and endometrial hyperplasia with immunostaining cytology using anti-LeY monoclonal antibody** （抗 LeY 抗体による細胞免疫染色を用いた正常子宮内膜と子宮内膜増殖症の鑑別診断）

主　査	筑波大学教授	医学博士	赤　座　英　之
副　査	筑波大学教授	医学博士	野　口　雅　之
副　査	筑波大学助教授	医学博士	内　田　和　彦
副　査	筑波大学講師	医学博士	山　本　達　生

論 文 の 内 容 の 要 旨

子宮内膜増殖症は子宮体癌の前癌病変とされ，早期体癌にも合併していることが多いが，その細胞診断は確立されているとは言えない。以前我々は，組織標本で抗 LeY 抗体による免疫染色を行った際に，正常子宮内膜は全く染色されないのに対し，子宮体癌は全例陽性で，合併していた子宮内膜増殖症，子宮腺筋症も陽性という結果を得た。そこで，抗 LeY 抗体による染色が，細胞診での正常子宮内膜と子宮内膜増殖症の鑑別診断に応用可能かを検討した。

正常子宮内膜 17 例，子宮内膜増殖症 25 例，子宮体癌 13 例を対象に抗 LeY 抗体による細胞免疫染色を施行した結果，組織標本同様，正常子宮内膜は全例陰性で，子宮体癌では全例で抗 LeY 抗体に反応する細胞が多数認められた。また，子宮内膜増殖症は単純型子宮内膜増殖症の 4 例が採取細胞も少なく陰性の結果となったが，他 21 例は陽性で，パパニコロウ染色では見逃すような小型のシート状の内膜細胞集塊にも陽性細胞が認められた。

以上より，抗 LeY 抗体による免疫染色は，細胞診での正常子宮内膜と子宮内膜増殖症の鑑別診断に有用であることが示唆された。

審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究は，新井氏自身のこれまでの研究にて判明した「抗 LeY 抗体による免疫染色が正常子宮内膜を全く染色しないのに対し，子宮体癌は全例陽性で，合併していた子宮内膜増殖症と子宮腺筋症は陽性」という事実に基づき，発展的に行われたものである。症例数が十分に多くない点，対照症例の選択条件が不明確である点，また観察期間を十分に長くとり，子宮体癌との関係を明らかにする必要があるなど，いくつかの問題点が指摘された。しかし，本研究は，originality が高く，従来の診断方法では診断が容易ではない子宮内

膜増殖症の診断に役立ち，しいては子宮内膜癌の早期診断に寄与する新しい診断法の確立につながるものと判断された。

よって，著者は博士（医学）の学位を受けるに十分な資格を有するものと認める。